



2018年度 一般社団法人 小樽青年会議所 スローガン

つなげよう 人・まち・未来 全ては愛する小樽のために

題字：山本 秀也

いぶき



第64代理事長
山本 秀也

小樽の防災面を強化するために 小樽青年会議所が取り組んでいくべき活動の方向性

の影響による災害に関しても、実際に現地に入り、復興支援をさせていただきました。そんな、私の経験を通して今後の小樽に残して行くべく、小樽青年会議所としての方向性を示したいと思えます。

北海道はもとより自然災害のリスクが低く、震度6以上の揺れに見舞われる確率や台風の平均接近数も少ない土地です。ここ小樽においても、北海道とおおむね同じ傾向と言えます。しかし、リスクが少ないからと安易に考えるのではなく、実際に起こってしまった時に何も出来ないと言う状況だけは避けなければなりません。そのためにも、これから掲げる5つの項目について実施していかねばならないと考えております。

1. 小樽青年会議所メンバーへの防災に対する意識付け。

まずは、我々メンバー自体に、防災に対する意識付けを行うことが必要だと考えます。我々小樽青年会議所メンバーには、実際に被

災された方はいません。有事の際に何が必要なのかを事前に勉強しておくだけでも防災に対する意識が高まると考えます。

2. 小樽青年会議所としての災害が起きた場合の対応マニュアルの作成。

次に小樽青年会議所として、実際に災害が起こった場合の対応マニュアルの作成が必要です。事前に勉強をしておくだけでは、実際に災害にあつた時に何をしようのか分かりません。自身の安否確認報告はもとより、小樽青年会議所として、まちのために何が出来なのかを考え、行動する中身を事前に決めておくことにより、スムーズな対応が可能だと考えます。

3. 小樽市、小樽市社会福祉協議会との災害時及び防災活動に関する相互協力協定書の締結。

公益社団法人日本青年会議所北海道地区協議会としては、北海道、そして、北海道社会福祉協議会と

災害時及び防災活動に関する相互協力協定を締結しております。また、道内各地の青年会議所においても、その動きが活発化しており、多くの青年会議所が締結を結んでいるところがございます。小樽青年会議所としても、小樽市や小樽市社会福祉協議会と協定を結ぶことにより、有事の際にスムーズな連絡体制がとれ活動することが出来ると思います。

4. 平時の調整連絡会議の実施。

現在小樽市にて策定されている小樽市地域防災計画には、防災会議に関する記載がございますが、私がこれまで多くの災害を経験されてきた方々と話している組織とは若干のずれがあると考えております。実際に災害を対応させていただいた2016年の台風被害においては、道庁の危機対策課の方々と多くの打ち合わせをさせていただきまして、そこにいたるまでも、平時から連絡会議を持たせていただいております。その経験から、小樽市の防災会議を実用的に運用出来るようにするために、防災会議メンバーのみならず、災害が実際に起きた時に連動しなければならない組織を含めた

平時からの調整連絡会議の実施が必要であると考えます。平時から会議を行っておかなければ、いざ災害が起きた時には何の対応も出来ません。有事の際に備えて平時から行う調整連絡会議は必要な会議だと考えます。

5. 小樽市、小樽市社会福祉協議会を主体としたボランティアセンターの開設訓練。

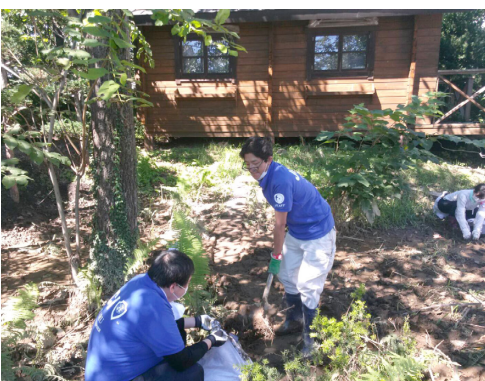
実際に災害が起きた時には、行政の対応とは別に、被災された方に対するボランティアのコントロールをするボランティアセンターが必要です。被災された方のニーズをしっかりと把握し、ボランティアの計画を立てます。慣例的にボランティアセンターは、各地の社会福祉協議会が主体となつて運営を行います。そして、北海道社会福祉協議会にはその知識があります。北海道社会福祉協議会の協力をいただき、小樽市社会福祉協議会を主体として小樽青年会議所やその他の団体を含め、平時の時に開設に向けた訓練を行うておくことが、有事の際には非常に有効になると考えます。

結びとなりますが、災害が起きた時には、相手の立場になって考

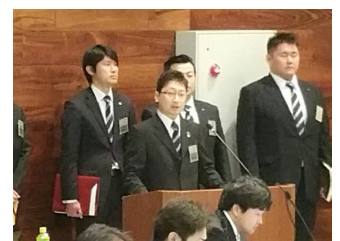
えることや、困ったときはお互い様という、他が為に助け合う共助の精神や日本に古来より受け継がれている和の心が大事だと思います。今後小樽に災害が起きないことを心よりご祈念申し上げ、一般社団法人小樽青年会議所としての防災に対する今後の方向性とさせていただきます。



清水町での災害対応時の様子（2016年）



熊本地震募金活動（2016年）



1月第一例会

1月13日、定時総会後に新年懇親会が行われました。

新年懇親会の担当は今年度「思いやり」をキーワードに、小樽JIC会員の様々な交流事業を展開していく齋藤委員長率いる「交流委員会」です。

第64代山本秀也理事長率いる小樽JICの新たな門出にあたり、来賓の皆様、小樽JICを卒業された先輩諸賢の皆様、各地JICのメンバーの皆様に、今年度小樽JICの方針をご理解いただくとともに、新年を祝う様々な【おもてなし】を通して親睦を深め、敬意と感謝の意を示すことに今年度は重点を置きました。

大変、多くの方々にご来場いただき盛会裏で終了出来ましたこと、改めて御礼申し上げます。



2月第一例会

2月9日より10日間、今年で20回目となる雪あかりの路2018へ参画いたしました。

今年は準メイン会場の小樽芸術村会場でゲート作成（地域発信部会）、チューブすべり台作成（すべり台部会）、広場・オブジェ作成（総務発信部会、会場交流部会）を各部会が受け持ちJIC広場を設営しました。大人も子供も楽しめるチューブすべり台は今年も大変喜ばれていましたし、オブジェにも関しても熱心に写真を撮られる方が多かったですように思います。しかし、会場変更の影響もあり、例年に比べJIC広場への来場者が少なく、どのようにしたら来場者の方に準メイン会場にも立ち寄っていただけるかという課題も残りました。

また、「見る側から参加する側へ」市民の皆様が一人でも多く参加していただけるよう、地域発信部会が市内の小学校へワックスボール製作を教えに出前も行いました。多くの方々にご協力いただきました誠にありがとうございます。



第一回新会員セミナー

1月29日、いなきたコミュニティセンターにおいて、土井委員長率いる真のJAYCEE育成委員会担当により「第一回新会員セミナー」が開催されました。

テーマは「JAYCEEとして活動するために」と題して、新会員に対して、青年会議所の要となる基本を正しく理解していただくために、第一部「青年会議所とは」を質問を交えながらプレゼンテーションで伝え、第二部では「JAYCEEとしての心得」として鹿角監事と天野常任理事より講演していただきました。

現役会員による講師のため、共感で

きる部分、どのような思考を持って活躍されているかなど、各会員が自分の活動の在り方を今一度考えさせらる貴重な時間となりました。

鹿角講師の講演内容

・与えられるだけではなく、自分から価値を見出さないと（掴み取りにいかないと）本当の自己成長には繋がらない。

・JICに力を入れる転機は3年目の専務。それまでのJIC活動はただ目の前にあることをこなしただけ。しかし、専務は自分で考え、いろいろな人と否が応でも付き合わなければいけない役職なので人との関りの中で「気付き」が多くあった。人によって自らが磨かれた。自分だけでは磨くにも限界がある。だから人付き合いは大切。会社の利害が関係のない場で、人と多く関わる機会があるのがJICの魅力。

・経済人として稼がなくてはいけないし、悪い事ではない。大いに稼ぐべき。人の求めることを突き詰めると稼ぎにつながる。では仕事だけを優先で、JICは片手間でもいいのか？そうではなく、人から仕事をもらうのであれば、人との信頼ができるつながりを作らなくてはいいけない。それを得られる可能性が多い場がJIC。

・信頼、仲間などは、本気で向き合う姿勢を周りに見せた時に初めて呼応して、自分に返ってくるものだと考えております。

天野講師の講演内容

・自分に課せられたJCIでの課題を投げだしたら、誰かが自分の負担を背負ってくれているということを理解することが大切。

・常に自分の周りには仲間がいる。仲間に迷惑をかけっぱなしでいいのか？自分の将来を良くしたいためのJCI選びだったとしたら、何かを対価として出さなければいけない。それが時間なのかお金なのかはその人々次第である。

・思いやりの連鎖がJCIの最大の良さ。
・自分が一流になるほうが簡単。自分の努力次第であるから。しかし、一流の人間を育てることのほうが重要。それを出来る可能性があるのがJCIだと思う。そして常に謙虚さを持って活動してください。

3月第一例会

3月15日、いなきたコミュニティセンター5Fにおいて郷土愛育成委員会による3月第一例会が「郷土愛へつながる思い出作りの重要性」全ては愛する小樽のために」と題して開会されました。

この事業は若崎委員長率いる郷土愛育成委員会が、明るい未来の小樽を創造するには、いづれ故郷を思い、故郷のために行動するきっかけとなる郷土愛へつながる記憶として子供たちに残すために、まず、我々が地域の現状と

郷土愛を育む環境を理解し、責任を持った行動へと促す意識統一の場が必要だと考え作り上げました。

第一部プレゼンテーションでは確井委員がプレゼンターとなり、「郷土愛について」、「郷土愛を育み郷土を想い行動する人材を育てるには」という内容を、他の地域で取り組んでいる地元民に向けた郷土愛育成事業、イベントなど例にあげて説明しました。

第二部プレゼンテーションでは白銀委員がプレゼンターとなり、「小樽の理解と今後に向けた事業説明」を行いました。クイズを交え小樽についての歴史や、観光産業、市民について紹介し、小樽で誇れる「ナンバーワン」を創ることを目指した事業となることを発表しました。

子どもの時に体験した故郷での強い思い出が郷土愛を育み、その先には愛着のある地元へ貢献したいという想い（地元に残って働きたい、またはUターン、奉仕活動など）が芽生えたと信じ、まずは子どもにインパクトのある故郷での思い出を創る・・・という事業を今後展開していく予定です。

また、新会員の会の名前が決定しこの例会の報告事項で発表されました。会の名は「維道会」で、つないでいくという意味がある「維」、今まで小樽青年会議所または諸先輩が歩んでこられた「道」という字を使用し、過去から未来へ活動をつなげていくことの尊さを重んじる意味で名づけました。こ

れからの活躍を期待しています。



第二回新会員セミナー

4月4日、小樽のいなきたコミュニティセンターで第二回新会員セミナーが開催されました。

本セミナーの内容としましては、第一部プレゼンテーションで「JCIとしての活動するために」と題し青年会議所の組織や役割そしてマナーについての勉強をしました。

第二部では「JAYCEEとしての心得」と題して品田監事より講演していただきました。品田監事の経験談から、10年前に経営者であるお父様を亡

くされ、それから会社を継ぎ、青年会議所に入会し、理不尽な部分もたくさんあったとお話もありましたが、一生懸命に取り組むメンバーの背中をみて、成長していったというお話を聞きました。人によって変わった、役を受けて変わった、人の為に動く事がJAYCEEとしての心得だと品田監事は締めくくりに述べられており、新会員にとって行動の基本となる部分を学ぶことができました。



「ポイ捨て防止！街をきれいにし隊」

平成30年4月21日（土）に小樽市の活動である第1回「ポイ捨て防止！街をきれいにし隊」に参加させて頂きました。

例年参加させていただいているこの活動ですが、ゴミの量が毎年少なくなっている気が致します。市民・観光客の皆様の少しの配慮で街がキレイになるという事を実感いたしました。今後とも美しい街を守っていききたいと改めて思います。そして機会があれば

非この活動に参加していただきたいと思いました。

また、4月18日には今年の雪あかりの路でJC広場を開設した「似鳥芸術村会場」のゴミ拾いもおこないました。



4月第一例会

4月28日、総務委員会担当の4月第一例会として、札幌わくわくホリデーホールで開催される北海道JCフォーラム2018に参加してきました。

JCフォーラムを通して学んだことを小樽JCの活動において活かすこと、また、JCフォーラムがどのような目的で事業計画され、どのように事業が行われたかということを考える機会をつくるため、事業計画書を添付したJCフォーラムの手引きという「し

おり」を作成し、4月28日の当日を迎えるまでに小樽JCメンバーに対して事前説明を行いました。

今年のJCフォーラムのテーマは「Hokkaido Design」ということで、インフラ、インバウンドを軸に道民全体で未来の北海道の姿を描こうというコンセプトのもとおこなわれた2つのフォーラムは、いずれも専門性の高い内容となりました。

そして、忘れてはいけなのが小樽JCが送り出した北海道地区協議会出向者の活躍です。JCフォーラムの担当委員会の副委員長を務める宮前出向理事をはじめ、各役割をしっかりとこなしていました。

本例会（JCフォーラム）を通して、小樽の課題として置き換えられたメンバー、事業計画と照らし合わせ事業内容を見るメンバーもあり、大変有意義な時間になったと考えます。近年、JCフォーラムの質について問われることもありますが、まずは、参加する側が真剣に学ぶ姿勢を見せることで、よりよい事業へと進化していくことを願います。また、小樽JCで実施したJCフォーラムに関するアンケート結果から、北海道の課題に対して先進的な取り組みに関する情報発信の場となることを求めるなど、行動喚起以外の部分も強化することが今後、必要となってくる部分であると感じさせられる例会となりました。



5月第一例会

5月18日、小樽市公会堂において真のJAYCEE育成委員会担当により、まず5月第一例会がおこなわれました。

テーマ「新たな時代のリーダー像〜共感を生む重要性〜」と題して、久末智章先輩を講師にお招きしました。

第一部は真のJAYCEE育成委員会によるプレゼンテーションがおこなわれ、地域の課題を解決する際に、それを経済活動としておこなえる仕組み作りが必要であり、社会にとって有用な企業となること、公益資本主義の考

えがこれからの小樽JCには必要で、そうすることで「地域の共感を得ることができ、そして、そういう人材になることが出来る場所、トレーニングできる機会があるのがJCである」という内容のプレゼンテーションでした。

第二部では公益資本主義を実践されている久末先輩に講演いただき、地域の人々の共感を得ながら社業を進展させ、また社会に還元するということが企業にとって重要であるということ、また、その感覚や発想をトレーニングできる場がJCであるということをお話いただきました。

講演は非常に説得力があり、拝聴したメンバーが皆共感できる、とても勉強になる講演でありました。



出向理事報告1

本年度、HOKKAIDOブランド確立委員会に副委員長として出向しております。当委員会では、北海道の魅力を再確認し、その魅力を世界にも誇れる北海道ブランドとして確立し、道外や世界へと発信することや、北海道民にインバウンドに対する見識を深めていただくよう活動しております。私たちの大きな事業である、4月28日に開催された北海道JCフォーラム2018においては、フォーラム全体の運営とインバウンドに関するフォーラムを行いました。また、先日のASPAC鹿児島大会では、委員会としてブースを出展し、アジア圏内の外国人の方々に北海道産の飲食物やVRによる各地域の魅力を発信してまいりました。

出向することにより、多くの方との出会いや経験が自身の成長につながるということを実感しております。LOMを代表して出向しているということをお忘れず、自身が得たものはしっかりとLOMに持ち帰り行動で示していきたいと思えます。

HOKKAIDOブランド確立委員会(地区)

副委員長 宮前 渡

出向理事報告2

今年初めて出向理事という役職をやらせていただきました。地区では財政委員会の中で、多くの議案のチェックをさせてもらっています。そういう中で、これまではLOMの事業のことしか知らない僕が地区の事業の議案を見る機会をいただき事業の構築のやり方をはじめ、運営、考え方、予算、何のために誰のためにやるのかということなど学ぶことがたくさんあることと同時に小樽の事業の良いところや、今後伸ばしていくべき所も見えるようになったと思います。

また、理事の一人として理事会の中で意見や発言もできる立場をいただいたので、出向して多くの議案をチェックしたり、出会ったメンバーの方から学んだことをしっかりと小樽のために発言して活かしていきたいと思えます。今年も残り半分ですが、出向理事としてしっかりと学んで自己成長し、小樽のためになるように過ごしていきたいと思えます。

財政特別委員会(地区)

委員 中村 圭助

出向活動報告

「憲法改正に興味はありますか。」と聞かれて興味があると答える人は少ないと思います。

しかし、憲法改正をするためには、最終的に国民投票で賛否が問われます。つまり、国民一人ひとりが主権者であり、当事者であるということを再認識しなければなりません。

2017年に行われた衆議院議員選挙で、与党の圧勝により衆参両院で憲法改正を求める議員数が戦後初めて3分の2を超え、憲法改正の発議が迫っております。

そのような状況の中、今年度の誇りある憲法確立委員会では、道民一人ひとりの当事者意識の醸成や国民投票の投票率向上などを目的に事業を構築しております。

最初の事業であるJCフォーラムの事業は中止となりましたが、現在7、8、9月の事業に向けて協議をしております。

7月の事業では、憲法議論の推進に向けた行動喚起に繋げる事業を行います。

次に、8月の事業では、個々のリテラシーを高め、行動喚起させる事業を行います。

最後に9月の地区大会では、集大成として憲法改正に対する知識の再確認と当事者意識の醸成をさせる事業を行います。

JCフォーラムでの事業が止むを得ない事情で実施できなかった分、この三ヶ月の事業で皆様に少しでも憲法問題に対して興味を持ってもらい、来る国民投票に向けての心構えができる事業へ向けて邁進してまいります。集大成である9月の地区大会への参加を是非お待ちしております。

誇りある憲法確立委員会(地区)

副委員長 山本 将之



小樽JCじゃがいもクラブ 50周年記念事業

本年、小樽JCじゃがいもクラブは創立50周年を迎える事が出来、去る5月23日（水）に小樽カントリー倶楽部新コースにて、杉江雄太郎杯・創立50周年記念杯を開催し、多くの先輩諸賢の皆様、歴代理事長の方々にもご参加をいただきまして、盛大に開催をさせていただき事が出来ました。また、同日夜には記念パーティーをグランドパーク小樽にて開催をさせていただきました。こちらにも多くの歴代理事長の方々を始め、歴代キャプテンの方々、そしてじゃがいもクラブの皆様にお集まりをいただきまして、誠にありがとうございました。

本年の50周年と言う記念すべき年にキャプテンをさせていただき事に心からの感謝と、50年と言う長きに亘りこの会を守って来ていただきまして先輩諸賢の皆様がこの場をお借りして御礼申し上げます。

さて、これからは例会が例年通り10月迄開催されますが、50周年と言う節目の年という事で、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。今後じゃがいもクラブを通じ現役メンバーと先輩諸賢の方々と多くの交流の時間をいただきたく今後ともよろしくお願い申し上げます。

キャプテン 土井 孝謙

北運河ルネサンス2018に向けて

2015年（一社）小樽青年会議所の60周年記念事業として開催された「北運河ルネサンス」はイルミネーションバルーンによって北運河に新たな魅力を創造し多くの市民や観光客が北運河エリアへと足を運ぶ機会となりました。

2年後の2017年には若者がまちづくりに積極的に関わる機会として、更には北運河エリアの歴史とそのストーリーに沿った「小樽遺産ツアー」によって日本遺産登録に向けた小樽JCとしての提言を示す機会として「北運河ルネサンス2017」を開催しました。

本年も5月に「北運河ルネサンス2018」の実行委員会が立ち上がり、夏の開催を目指して協議を続けております。小樽の原風景を残しながらも、新たな観光資源として光を放つ北運河エリア。そこに地域に根ざす団体として率先して関わり、引き続き魅力の発信を行うと共に新しいアプローチで、更なる可能性を示すべく取り組んでまいります。本年のメイン事業である郷土愛育成事業との同

時開催も予定しておりHP、SNSにて随時情報発信いたしますので、沢山のご来場並びにご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

実行委員長 栗田 徹

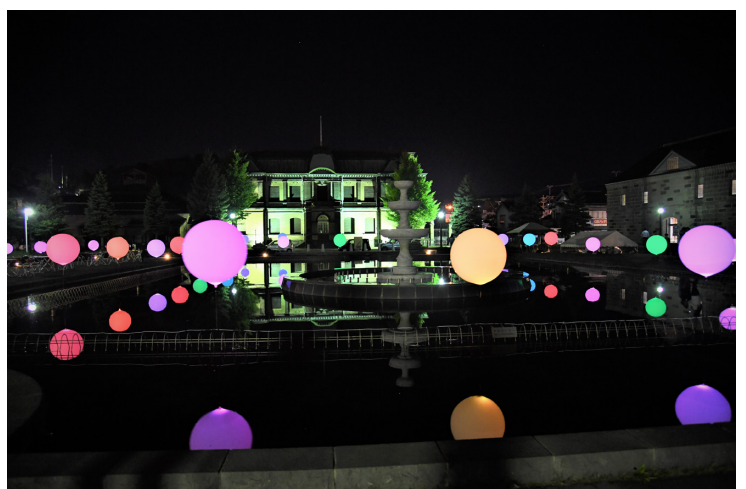


北運河ルネサンス2017

「小樽遺産プロジェクト～日本遺産登録を目指して～」

一般社団法人 小樽青年会議所 小樽市歴史文化センター 小樽市観光センター

8月5日（土）
9月3日（日）
14:00～





- ①生年月日
- ②血液型
- ③勤務先
- ④役職
- ⑤会社住所
- ⑥趣味



おかもとやすひろ
岡本康裕

- ①S 5 4年1 1月2日
- ②O型
- ③(株) 岡本商店
- ⑤小樽市入船2-7-9



きた ゆうき
北雄樹

- ①S 5 4年1 2月17日
- ②O型
- ③(株) 石井印刷
- ④取締役営業部次長
- ⑤小樽市相生町8-13
- ⑥キャンプ

●小樽が日本遺産に追加認定へ●

5月24日付で、文化庁より北前船の寄港地として小樽が日本遺産に追加認定されました。

日本遺産とは地域の歴史的的魅力や特色のある文化や伝統に関わるストーリーを文化庁が評価してブランド化する事業です。

この『北前船の寄港地』としては既に全国11自治体が認定されており、今回、灯台のある日和山、旧北浜地区の倉庫群が評価され、他の26自治体とともに追加認定されるに至ったということです。

今回、小樽の追加登録は複数地域との連携による「シリアル型」で認定されましたが、今後は小樽単独での認定となる「地域型」を目指すとのことです。また、6月1

日は小樽市が文化庁へ「地域型」登録に向けたヒアリングに行くなど着実に話が進んでいます。まずは第一歩として日本遺産に認定されたことは大変喜ばしいことです。

昨年、小樽青年会議所では北運河ルネサンス2017と題して、北運河の魅力と小樽単独による「地域型」の日本遺産登録を目指し、多くの市民の皆様が日本遺産というものを認知して頂くために事業を行いました。メインの企画となる小樽遺産ツアーでは多くの方に北運河地区の魅力を感じていただきました。

地域型での日本遺産登録を目指して活動した団体として、今後も動向に注視して活動を行なって参りたいと考えております。

小樽JCI今後の主なスケジュール

7月21日～22日	サマーコンファレンス
7月27日～29日	7月第一例会(潮まつり)
8月7日	8月第一例会(新会員)
8月11日～12日(予定)	北運河ルネサンス2018
8月オープン事業(郷土愛育成委員会)	
9月7日～9日	地区大会(小牧大会)
10月4日～7日	全国大会(宮崎大会)
10月19日	10月第一例会
10月30日～11月3日	JCI世界会議
11月16日	11月第一例会(53年組を送る会)
12月3日	12月第一例会(次年度アワード)
12月16日	12月第二例会(表彰例会)
	クリスマス家族会

小樽青年会議所 メンバー募集中



近年、小樽市の人口減少、メンバーの在籍年数の短期化などにより会員数が減少しています。2018年度は6月現在44名(新会員含む)で活動しており、小樽青年会議所は会員拡大に組織一丸となって取り組んでおります。先輩諸賢、関係各所の皆様方にもご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■編集後記■

今回、創立63周年記念号を発行させていただきました。

当委員会では引き続き、いぶき、ホームページ、Facebookを通して2018年度(一社)小樽青年会議所の活動を多くの方々に知って頂けるよう、広報活動を行ってまいります。今後ともよろしくお願い致します。

総務委員会 委員長 吉川 武志



アドレスまたはQRコードからHPへアクセスできます。
<http://www.otarujc.or.jp/>

つなげよう 人・まち・未来 全ては愛する小樽のために

JCI 一般社団法人 小樽青年会議所
Junior Chamber International Otaru

ホーム 小樽について 新会員募集 広報誌 ステージール 活動ブログ お問い合わせ

私たちと一緒に活動しませんか?

代表理事 山本秀也

About Otaru JCI
小樽青年会議所について

活動

私たちと一緒に活動しませんか?

理事長所信 小樽JCIについて 活動ブログ 新会員募集